

令和2年度第1回 旧国立駅舎運営連絡会議事録（要旨）

日時：令和2年10月7日（水）19時00分～21時15分

場所：オンライン会議

（事務局は国立市役所3階 第3会議室から参加、傍聴席は第3・第4会議室）

出席委員：秋田委員、磯部委員、落合委員、佐藤委員、鈴木委員、中村委員、藤田委員、藤本委員、洪委員、三島委員、宮崎委員

欠席委員：木村委員

事務局：国立駅周辺整備課 関野課長、外立係長、菱沼主査、和田主任、後藤主任、藤堂主任
旧国立駅舎まち案内所スタッフ 磯貝チーフ

記録（要旨）

1. 開会あいさつ

- ・鈴木会長より開会の挨拶があった。
- ・事務局より事務局側の参加者紹介、資料確認、委員の出欠状況、およびオンライン会議について説明を行った。

2. 開業からの経過

- ・事務局より旧国立駅舎の開業からの経過と新型コロナウイルス感染症による影響について報告した。
- ・事務局より JR 東日本との国立駅南口用地交換協議の進捗状況について説明した。

（鈴木会長）旧国立駅舎の両脇を広場にできるという可能性が大きく広がるニュースがあった。将来的にこの連絡会でより楽しい意見交換ができるようになったと思う。今後を楽しみにしましょう。本日の議事予定について、前回までの復習が最初にあって、次に開業後の旧国立駅舎の運営状況を報告していただく。委員の皆さんが気になっていることを意見交換できたら良い。議題の3番（将来像実現に向けての検討（イベントの検討））、4番（イベント等の事前相談について）は、旧国立駅舎を中心にまちづくりをしていきたいという話の続きである。そして、旧国立駅舎を使うにあたっての事前相談を良くしていくことについて話し合う。

3. 前回までの振り返りとまとめ

- ・事務局より旧国立駅舎運営連絡会の前回までの振り返りとまとめを報告した。

（鈴木会長）過去3回分のことが分かりやすくまとまっていた。大事なことは、任期が2年なので今年度が最終年度で後4回しかないこと。前半はこれまでやろうと言ってきたことをやる。残りの2回で次に繋がるような話をしていくので、ご協力をお願いします。

4. 旧国立駅舎運営状況について

- ・事務局より旧国立駅舎運営状況について報告した。

- (鈴木会長) 圧倒される内容だった。運営上難しい状況の中でいかに充実して、外への発信とイベントのバランス感、派手なことだけでなく大事なテーマも盛り込んであり素晴らしいと感じた。
- (中村委員) コロナで休館して今は開館しているが、どのようにお客様を集めていくのか、あるいは集めないでやっていくのか、どちらの方針か。
- (事務局) 集めようとして集めるのはイベント開催時と割り切っている。普段においては、コロナ禍で運営している中、3密を防ぐために扉を開放していることなど、どんなお客様も「そこに居て大丈夫だ。」と思える雰囲気作りを意識している。排除につながるような雰囲気は出さないようにしている。
- (中村委員) くにたち郷土文化館もマスク着用をお願いしているが、着用してない方に注意するか悩みどころである。ある程度緩めなくてはいけないところもあるし、規制しないといけないところもあるので難しい。
- (事務局) 旧駅舎では、昼寝している方や自転車を旧駅舎の中に入れてしまう方に対して、そのままにしていたりしばらく様子を見ていたりする。
- (鈴木会長) 寛容な対応が素晴らしい。

－休憩－

- (佐藤委員) イベントの情報はどこかに記載しているか。
- (事務局) 本日資料では19ページ以降、ウェブサイトでは「イベントリポート」「これからのイベント」というコーナーがある。
- (宮崎委員) 旧駅舎のことを知りたい場合に、利用ガイドブックのようなものはないか。
- (事務局) 施設の利用案内リーフレットは現在制作中である。事業者を選定している段階で、今年度中には完成予定である。
- (鈴木会長) 事前相談 56 件のうち 36 件対応したというのは、どういった意味か。
- (事務局) 36 団体・法人に対して 56 回実施したという意味である。
- (鈴木会長) 20 件は相談に乗らなかったという意味でなくて安心した。
- (洪副会長) 事前相談に傾向があるか。例えば市民団体が多いとか、個人・事業者の割合、件数または属性についてどういった傾向なのかを知りたい。
- (事務局) 明快な傾向はまだ掴みかねており、バランス良く来ているというのが正直な感想である。
- (藤田委員) 修繕対応 5 件・11 か所とあるが、どこか脆いところがあるのか。
- (事務局) 今年は梅雨が長く、文化財である旧駅舎の無垢材が湿度に弱いため、扉の開閉に係わるところで問題が多発した。
- (鈴木会長) イベントの集客人数の数え方はどのような方法か。同時期に開催したイベントの数え方は。
- (事務局) 入館者数をカウントしている装置があり、広間イベントにおいては 100% 近く、展示室だけで開催したイベントにおいては、全来館者数の 3 分の 1 という目安を適用した数字である。
- (鈴木会長) では、推計値と考えてよいか。
- (事務局) そのとおりである。

5. 将来像実現に向けての検討（イベントの検討）

（鈴木会長）これまでの連絡会で、メンバーのアイデアをやってみてはどうかという話があったので、その延長でイベントを検討する。ただ、必ずしも委員の手でやることを前提にせず、「もっとこういうイベントがあったら良い。」というものでも構わない。

- ・ 2グループに分かれて意見交換した。その後、次のように内容を共有した。

（洪副会長）最初に、実際に旧駅舎へ行って感じたことを話し合った。旧駅舎をよく知らない方の意見に「どういう場所か分からない。」がある。なぜかを考えた時に、「広間だけを見て、ただの公共スペースと思って終わってしまう。」「まち案内所、奥の物販等の機能に気づかない、入っていいのか分からない。」「動線にも問題があるかもしれない。」といった話をした。イベントの案では、「他の地域でおもちゃの取り換えっこイベント事例がある。おもちゃでなくても本でも良い。」「これまで実現したイベントは、高齢者が行き易いものだったのではないかと、色々な世代、若い学生・子ども・30代・40代にも来てほしい。各世代に向けた取り組みがあると、様々な視点から多くの人に旧駅舎を知ってもらえるのではないかと。」「今、同じ時間に何かをすることがコロナで難しいのであれば、逆に時間差があっても楽しめるもの考えたらいいのではないかと。周辺のおすすめの場所を来た人が書き込めて、それを見た人がそこに行ってみようとなれば面白い、例えば毎月のテーマがあってもいい。」という意見が出た。

（事務局）「屋外の使い方、屋外でこういったイベントができるかに興味がある。」「今後イベント利用緩和が進んでいくに従い、屋外でのフードイベントなどにも広げていきたい。」「GoTo 商店街という話がある、商店街に補助金が出る。」「3密対策の中、YouTube にイベントの様子をアップして、市内外にPRしていくのはどうか。」「オンラインイベントをやってみる、コロナ禍とバーチャルイベントは合うのではないかと。」「イベントのモデルケースみたいなものを委員で考えてもいい。」という意見があった。また、旧駅舎の担当から「イベントの相談のうち、こちらから声をかけている割合は半分くらい。また、相談の7～8割を実現している。」という情報提供があった。

（鈴木会長）「7～8割を具体化できたが、その中でフェイドアウトしてしまう団体も少数だけがあった。」とのこと。上手に事前相談が回っているのかなという印象である。補足として、「ここが借りられることを知らないのではないかと。」「場所柄の制約、条件、建物の保存、人が往来するという条件、これらを上手く使えると良いが、なかなか難しい部分もある。」という話もした。

6. イベント等の事前相談について

（事務局）昨年度の意見交換の中で、事前相談のシミュレーションやロールプレイを委員同士でやってみると、どのような事前相談が良いかの発想が生まれるのではないかと話があった。

（鈴木会長）前の議題が消化不良であれば、その話でもよい。あるいは、次回に事前相談のロールプレイをやるのが良いと考えているので、具体的に実現したいものを相談するとどのようなことが起きるかという感じで話してもよい。

- ・再び2グループに分かれて意見交換した。その後、次のように内容を共有した。

- (事務局) 「コロナの状況で、実際にどんなイベント内容であれば相談して良いのか分からない。」「何が借りられて何ができるのかという具体的なイメージを持ってない。」「学校や主婦に、こちらサイドから指名して誘導していくことが必要ではないか。」という意見が出た。事前相談をロールプレイする意味としては、「委員が相談を実際にやってみることで、ここまではできる、これ以上はできない、ではそれをやるための解決策は、というところの理解を深めるためにシミュレーションすることは効果的だ。」という意見が出た。
- (鈴木会長) やはり皆さんでロールプレイをしてみた方が、実際の相談がどのように行われているのか実感できるのではないかと。「どういう条件で使えるか、備品は何か等の情報を教えてもらえないと提案しづらい。」という意見もあった。そういう具体的なことも、ロールプレイをするとより実感を持てるのではないかと。
- (洪副会長) 「旧駅舎にとどまらずに、街を歩く、回遊させるようなイベントが良いのではないかと、例えばスポーツのイベントであれば、旧駅舎起点でサイクリングの貸出し場所にして、そこから街を巡るみたいなもの。食関係であれば、旧駅舎で知った後にお店に行くといったもの、旧駅舎と街を連結できると良い。」「季節を感じるイベントをシーズン毎にやる、今はあれをやっているから旧駅舎行こうというふうになるのではないかと。」というものが挙がった。また、どこかが主催でやるというより、誰かがコーディネートする必要があるが、「食をテーマにイベントをする。」と声かけするような形で、ひとつのイベントを作ることも考えられる。
- (鈴木会長) 我々連絡会のメンバーは、これだけ旧駅舎の運用の仕方を説明してもらっているけれど、それでも分からないことが沢山あるということがわかった。つまり一般の方々には全然分からないということだ。ということは、連絡会の役割は橋渡し役なのだと実感した。すでに事前相談をした経験がある佐藤さんが「どういう時間帯にこういった年齢層、こういった人たちが旧駅舎に集まっているかがよくわからない。」と言っていたが、例えば若い人には自分たちの提案で旧駅舎を使えるという発想がないかもしれない。そういうところを繋いであげるのが我々の役目ではないか。秋田さんは「具体化した案に対して、それはできませんと言われたら困るが、具体化しないで持っていくわけにもいかない。事前にどれくらいのものでできるかを分かっているとやりにくい。」宮崎さんは「何を使えるかが分からないと具体的な案を作りにくい。」と言っていたが、これはおそらく市民の方が提案するにあたって同じではないかと思う。だから連絡会が橋渡しをしたい。磯部さんの「学校等にこちらが声をかける、こちらからアクションをする。」という話も、『橋渡す』ということだ。

7. 次回について

- (鈴木会長) できるかできないか分からない提案でも、本当にやってみたいものでも構わないので、次回持ち寄って見ないか。それを事務局に見ていただく形で事前相談をする。こういうふう相談をしているというのがより具体的に分かるのではないかと。関連して、現時点で、現場で相談を重ねてこんなことが困ったとか、こういうことが分かっていたらもっと上手くできたとか、感じていることがあ

れば旧駅舎担当に伺いたい。

(事務局) 今の事前相談シートがイベント向けになっているので、プロモーション・配架をしたいなどは、カスタマイズした別の事前相談シートを用意すると良いのではないかという話がある。

(事務局) 「間貸し」という考え方、既存の展示や広間のベンチ等があり、人が往来する中でやるということを理解していただくのに少し時間がかかる。そこで相手が困惑してしまうことがある。

(鈴木会長) 次回に、具体的な相談内容をご紹介いただきたい。その場で質問、あるいは、いくつかモデルケースを用意していただいてもよい。通常業務に負担のない範囲で構わないのでお願いしたい。次回に提案を持ってこられる委員はいるか。

(- 7名が手を挙げる -)

(鈴木会長) これだけあれば十分そうだ。事前相談シートを使って、事前に事務局へ提出していただく。

(事務局) 次回の日程は11月24日または11月25日で、欠席者等と調整がとれ次第連絡する。

(当日の様子)

